

L'aile d'Howl



【ライル・ドウル:ホウルの翼(仏語)】

April 2016

花巻北高男子ハンドボール部、全国初勝利!!

去る3月24日から29日まで、兵庫県神戸市を中心に開催された第39回全国高校ハンドボール選抜大会に、花巻北高男子ハンドボール部が初出場し、見事初戦を突破して、全国大会での初勝利を挙げました。

年明けの1月7日から花巻市総合体育館にて開催された全国高校選抜大会岩手県予選において、県高校新人戦に続き不來方高校を延長戦で下し、見事岩手県第一代表の座を獲得した花巻北高。その勢いはとどまることを知らず、続く東北高校ハンドボール選抜大会(全国選抜大会東北予選会)においても、宮城県代表・聖和学園を突き放して勝利し、堂々の東北地区の第一代表の座を獲得。ハンドボール王国いわての存在感を十二分に発揮すべく、初めてとなる全国高校選抜大会の歴史にその名を刻みました。



2日目の第2回戦からの登場となった花巻北高。初戦の相手は、初日に1回戦で三重県代表・四日市工業を破った富岡高校(群馬県代表)。全国的にも名が知られる強豪校を相手に、前半は一進一退の試合展開となり、11-10と1点のリードで折り返します。後半に入り一気にエンジンがかかると、後半のみのスコアでは22-9と圧倒し、33-19で見事に全国大会での初勝利を飾りました。

迎えた第3回戦は、なんと全国大会の常連校、岩国工業(山口県代表)。年代別日本代表選手も数名擁する布陣は、相手にとって不足なし!しかし、やはり全国レベルの壁は厚く、前半で21-7と引き離されると、後半の追い上げも敵わず、17-36でゲームセット。地力の差をまざまざと見せつけられた結果となりました。「中途半端な気持ちで試合に入るとダメだ」という齋藤崇監督の言葉どおり、一度崩れたチームとしてのまとまりやリズムを取り戻すことができず、非常に悔しい敗戦となりました。相手の岩国工業は、この後決勝戦で大分県代表・大分高校を下して36年ぶり3度目の優勝を果たしました。全国大会優勝チームと戦えたことは、必ず

今後の成長の糧となるはずです。さあ、この夏が本当の勝負。一度上り詰めた県の頂点を、またすぐに奪還されることなく、また全国大会の舞台に立ってほしいと思います。

東北第4代表として今大会に出場した男子・不來方高校は、和歌山県代表・紀北農芸高との2回戦、後半残り3秒で相手に1点リードされる場面、タイムアウト明けのプレーで遠藤渉選手が同点弾を叩き込み、延長戦へ。その勢いのまま延長戦を制し、見事3回戦進出を果たしました。しかし、続く相手はこちらも全国大会常連の北陸高(福井県代表)。前半を2点リードして後半に突入しましたが、惜しくも逆転を許し、24-28で敗れる結果となりました。キャプテンが怪我で不在の中、チーム一丸となって戦い、ベスト16入りしたことは非常に素晴らしかったと思います。板屋キャプテンが復帰してから、さらに実力を伸ばして、また全国大会で戦うことを期待しています。

女子・不來方高校もベスト16入りを果たしました。エースが怪我で不在となる中、玉野光南(岡山県代表)との初戦を見事突破しますが、次の相手は昨年夏のインターハイ女王・高松商(香川県代表)。臆することなく戦い、前半を4点リードして折り返し、勝利が見えていたところでしたが、後半に相手にペースを掴まれ、悔しい逆転負けを喫しました。こちらも強豪相手に善戦できたことが自信につながると思いますし、新2年生の成長も見られた良い機会になったと思います。



☆花巻市ハンドボール協会の総会が開かれました☆

4月16日、花巻市内のホテルにて、2016年度花巻市ハンドボール協会総会(兼常任理事会)が開催され、昨年度の事業報告及び収支決算報告、今年度の事業計画及び収支予算等について協議されました。今年はいよいよ希望郷いわて国体・いわて大会が開催されることもあり、協会関係者が一致団結して取り組むことが確認されました。その後に行われた懇親会では、この春から花巻地区に赴任した新会員の紹介が行われ、富士大学ハンドボール部部長に就任した菊池豊教授、花巻北高校に着任した齊藤奨先生(←盛岡三高)と米田智哉先生(花巻クラブジュニア→花巻北中→不来方高)、花巻市国体推進室の平石一真さん、花巻中学校の大坊春樹先生たちの歓迎会を兼ねて、大いに盛り上がりました。元日韓代表の佐久川ひとみさん、張素姫さんも参加し、なんと豪華な顔ぶれとなりました。こんな協会って、日本全国探しても非常に珍しいのではないのでしょうか？

今年も協会関係者が協力して、活発な事業展開を心がけていきます。よろしくお願いたします。

春季県南大会は富士大学がアベック優勝！

新年度になったばかりの4月10日、早くも2016年度最初の大会が開催されました。なんと第49回を数える春季県南大会です。日程及び会場の関係上、この日は小学生部門のみが開催され、翌週末の4月16日～17日にかけて、高校・一般部門が行われました。

小学生部門は、3月末に行われた箱崎カップからまだ2週間ほどしか経っておらず、その間に6年生が卒業し、新チームになってまだ日が浅い段階での公式試合。どのチームもまだプレーが落ち着かない中で、やはり小学生と言えども体格差があり、体が大きくてシュート力がある子どもたちが主に得点を挙げる感じになっていました。箱崎カップの流れのまま、男女とも矢巾フェニックスが優勝。U-10、U-8の部はいずれもリトルハンドが優勝する結果となりました。

翌週に行われた高校男子の部では、一回戦はいずれも地元・花巻の高校が勝ち上がりましたが、その中に県北から参加している久慈高校の姿もありました。昨年度まで一生涯チームの指導にあたってきた西里恒平コーチが異動となり、吉田威一郎コーチがチームを率いる体制になった新年度。チームのひたむきさは失われることなく、みんな素直な気持ちで一生涯プレーしている様子が非常に印象的でした。残念ながら準決勝で花巻北高に敗れましたが、3位決定戦を見事に勝ち、堂々の3位入賞を果たしました。今後も久慈高校の勢いに注目です。

さて、花巻北高と花巻南高の顔合わせとなった決勝戦は、非常に見応えがある試合でした。選手層では全く引けを取らない花巻南高は、高橋幸宏選手の高打点からのシュート、鎌田竜生選手のスピードあるカットインなどで得点を重ね、前半は7-6の1点差で折り返します。東北大会王者に土をつけるのかと周囲も期待を高める中、やはり全国大会を経験し、崩れたチームワークを立て直すことを学んだ花巻北高は齋藤崇監督の叱咤激励もあり、後半は徐々に点差を広げていきました。終わってみれば20-12で花巻北高が優勝。地力の強さを見せてくれました。しかし、前半のエンジンのかかりが遅いのは変わらず。今後その辺をどのように修正してくるかが夏の高総体につながってくるでしょう。



高校女子も、男子と同じく花巻北高と花巻南高の対戦となりました。花巻南は岡本文子選手がOFを組立て、森田芽吹選手(花巻クラブジュニア→花巻北中)が交代でDFに入り、中央を固める布陣で臨みました。その采配が功を奏したのか、前半は10-7と点差は開かなかったものの、後半は13-3と花巻北高を圧倒。花巻北高も中学校からの経験者が多かったメンバーでしたが、花巻南高の牙城を崩すには至りませんでした。

一般男子の部は、ガンバ花クラに森田啓亮選手が登場。その圧倒的な存在感と非

常に巧みなDFに、初戦を戦った花巻クラブのメンバーも接戦を強いられることになりました。一進一退の攻防の末、27-24とリードを守った花巻クラブが意地の決勝進出。昨年同様、富士大学との決勝戦に挑みました。決勝では、前半を1点差で折り返し後半に望みをつなぎますが、後半に入り、OFのミスを決めた富士大学が徐々に点差を広げ、26-17で優勝。花巻クラブは惜しくも準優勝となりました。

一般女子の部は、富士大学が決勝戦でも岩手桐花クラブを圧倒。前半を無失点で折り返し、後半もその勢いは止まらず、32-3で連覇を達成しました。来年はついに50回を迎える県南大会。記念すべき大会になることを期待します。

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)

2016年4月号

2016年4月25日 発行

発行: 花巻市ハンドボール協会

Special thanks to 高橋弘喜さん